

## 電車がきます

田中 愛子

NHKのEテレでときどき「電車がきます」という歌が流れる。電車が入線するのを知らせる「接近表示板」（というのだそう）の映像に重ねて、竹中直人さんが「電車がきます。電車がまいります」と歌っている。その歌を聴くたびに私は「さすがEテレ、正しい日本語だなあ」と感心する。私ならこちらに向かう電車が遠くに見えた時点で「電車が来ます」ではなく「電車が来た」と思ってしまう。電車は姿が見えただけで、まだホームには到着していない。故障したりなにかの事情で急ブレーキをかけたたりしてホームの手前で止まってしまいかもしれない。それなのに電車が見えただけで「来た来た」と動きが完了したような言い方をしてしまう。

（はやて）号速度落し（てやは）らかに柳あをめる駅  
に入りくる 柏崎曉二『北窓集』

さすがに冷静な柏崎さん、「駅に入り来た」とは詠わらない。ただし「入りくる」と詠っている。

故郷にいたころ私は、本数の少ないバスを逃がさないよう早めにバス停に着くようにしていた。そのため長いこと停留所でバスを待つようになる。だから遠くの曲がり角からバスが姿を現した時は「来た来た」と心の中で叫んでいた。何かを心待ちにしている時は、「来た」と言ってしまうのかもしれない。駅頭で友だちを待つ時もそうだ。

そういえば、探していたものがようやく見つかったときも、思わず「あった」と言ってしまう。いま目の前にあるのに、「ある」ではなく「あった」というのも不思議である。電車といい探しものといい、なにかを発見した時に思わず発するうれしさやおどろきの表現なのかもしれない。

「でんしゃきた」ホームで待つ子の歓声を風が巻き上げ  
きつとこのお子さんも電車が見えたときにうれしくて声を上げたにちがいない。

いま、柏崎さんは蓮池のほとりで静かに本を読んでおいでです。ときおり目を休めて下界の方を見やることもおありでしょう。そんな折、コスモスのなつかしい仲間を見つけたら、いつもは冷静沈着な柏崎さんも「あつ、Aさん、いたいた」と声に出されるかもしれません。いつの日か、あのお優しい笑顔で「来た、来た」と迎えていただくために、心きよらかに過ごしましょう。柏崎さんのおいになるのは天国ですから。